

平成 20 年度第 6 回研究会のお知らせ

日時：平成 21 年 3 月 25 日（水）14:30～17:00
 場所：東京大学生産技術研究所 駒場キャンパス
 A 棟 3 階 中セミナー室（As311,312 室）

1. 研究会 司会 國井洋一（東京農業大学）

14:30～15:30

日本庭園における園路上の位置計測及び景観の研究
 加藤 萌優美（東京農業大学）
 地理空間情報を用いたリスクマネジメントの
 3D 表現について～江戸期の酒匂川洪水を例に～
 茂木 理雄・高橋 暢良（東京電機大学）

15:30～16:00 コーヒーブレイク

16:00～17:00

CGによる雑草地の3次元表現及びその利用について
 國井 洋一（東京農業大学）
 UAV ベースのモニタリングシステム
 長井 正彦（東京大学）

2. 懇親会 17:00～

3. 国際会議情報

(1) 3rd International Workshop on 3D Virtual Reconstruction and Visualization of Complex Architectures - 3D-Arch'2009

期日：25-28 February, 2009、場所：Trento, Italy

会議報告：

3 日間にわたり論文数 62 編（参加国：24 カ国、参加者数：91 名）が発表された。標記会議は今回で 3 回目（1 回目：2005 年、2 回目：2007 年）であるが、前回、前々回に比べて論文数、参加者数とも約倍になった。

この急激な倍増の背景はコンピュータ・サイエンス分野の急激な参加（全体の約 3 割）であり、その発表の多くは Google Earth や Virtual Earth を基盤に都市空間モデルの構築であった。

特に、コンピュータ・サイエンス分野の参入により、手法そのものとしては目新しいことではないが、Semantic modeling(形状・材質ごとに分類された構造要素によりモデリングを行うこと)という言葉や、かつてレーザデータによる 3D 表現において使用されていた LOD(Level of Detail)も、基礎構造要素によるモデルを LOD1、屋根などを付けたモデルを LOD2、テクスチャーモデルを LOD3、インテリアまで付加したモデルを LOD4 と呼ぶな

ど、従来と異なる動きが感じられた。また、文化財関係でも Google Earth や Virtual Earth を背景に、当時の景観を再現することを Archaeological landscape と称した成果が多く発表されていた。

これらの研究レベルは Com.V 関連の成果には遙かに及ばない感はあったが、Google Earth さらには Virtual Earth をきっかけにコンピュータ・サイエンス分野が空間モデルの構築に強い関心を持ち出したと感じられた会議であった。

(2) 9th conference on "Optical 3-D Measurement Techniques".

期日：1-3 July, 2009、場所：Vienna, Austria

Full paper deadline: April 20th, 2009

<http://info.tuwien.ac.at/ingeo/optical3d/>

(3) Videometrics X

期日：2-6 August, 2009

場所：San Diego, America

Author notification: March 27th, 2009

Full paper deadline: July 7th, 2009

詳しくは：<http://spie.org/x12769.xml>

(4) 22ND CIPA SYMPOSIUM

期日：11-15 October, 2009、場所：Kyoto, Japan

Abstract Submission deadline: May 15th, 2009

Author notification: June 30th, 2009

Full paper deadline: August 15th, 2009

<http://www.rgis.lt.ritsumei.ac.jp/cipa2009/>

上記期間中同じ会場で日本写真測量学会秋季学術講演会が併催されますが(10/13 15)、ARIDA 会員は割引料金の 3 万円で両方の会議に出席できますので、多くの方の参加を期待しています。

4. ARIDA Award

応募論文数 4 編があり、どれもレベルの高いものでしたが、手法の独創性が明確に述べられていた下記の論文が ARIDA Award に決まりました。おめでとうございます。

Title: The Stone Wall Restoration Assistance System

Author: Keisuke KIMOTO (Keisoku Research Consultant Co)

文責 近津博文